

女性活躍・D&I 推進に関する 学生向け意識調査報告書

調査期間

令和6年10月10日～11月28日

福岡県人づくり・県民生活部女性活躍推進課

I 調査の概要

1. 調査目的

女性活躍・D&I 推進や働きがいの実現に向けての若者の意識を把握し、今後の施策に反映することを目的として実施した。

2. 調査方法

WEB回答

3. 調査対象

福岡県の大学生・大学院生・専門学校生等

4. 調査期間

令和6年10月10日～11月28日

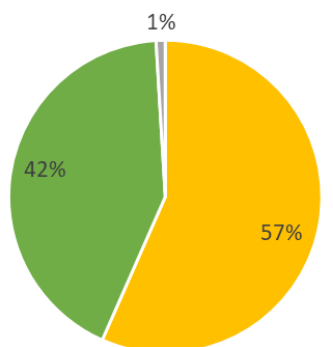
5. 有効回答者数

106名

6. 回答者属性

○性別

	実数	%
女性	60	57
男性	45	42
答えたくない	1	1
全体	106	100

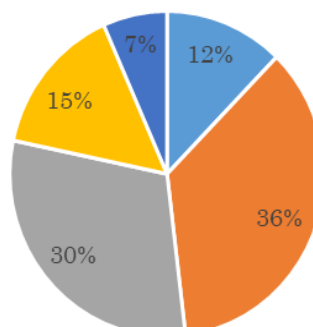


■ 女性 ■ 男性 ■ 答えたくない

○学年

	実数	%
大学1年生	13	12
大学2年生	38	36
大学3年生	32	30
大学4年生	16	15
その他(※)	7	7
全体	106	100

※その他：大学院生・専門学校生等



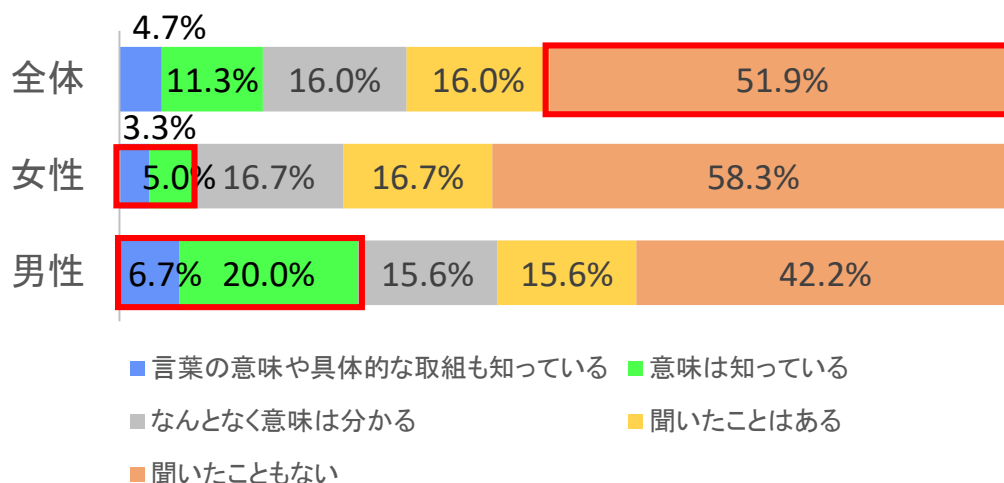
■ 大学1年生 ■ 大学2年生 ■ 大学3年生 ■ 大学4年生 ■ その他

Ⅱ 調査結果

女性活躍・D&I 推進について

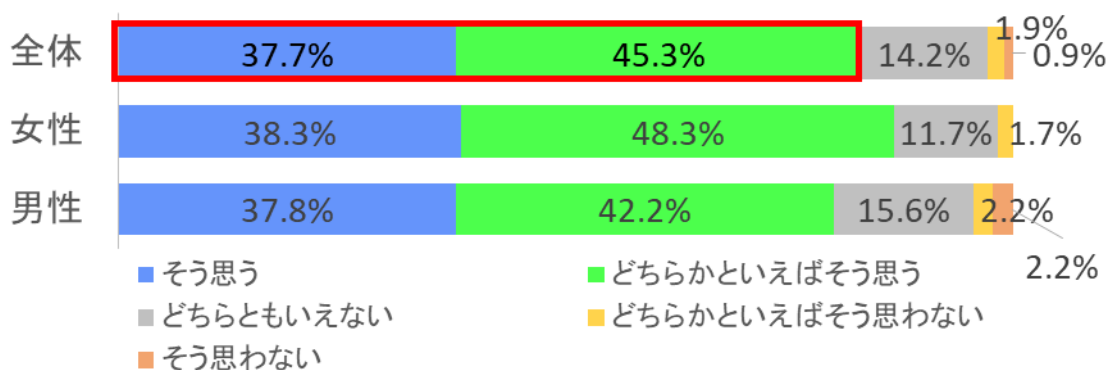
問1 D&Iについて知っていますか。

- ・「知っている」と回答した割合は、女性約1割（8.3%）、男性約3割（26.7%）にとどまり、「聞いたこともない」という割合が約半数を占めた。



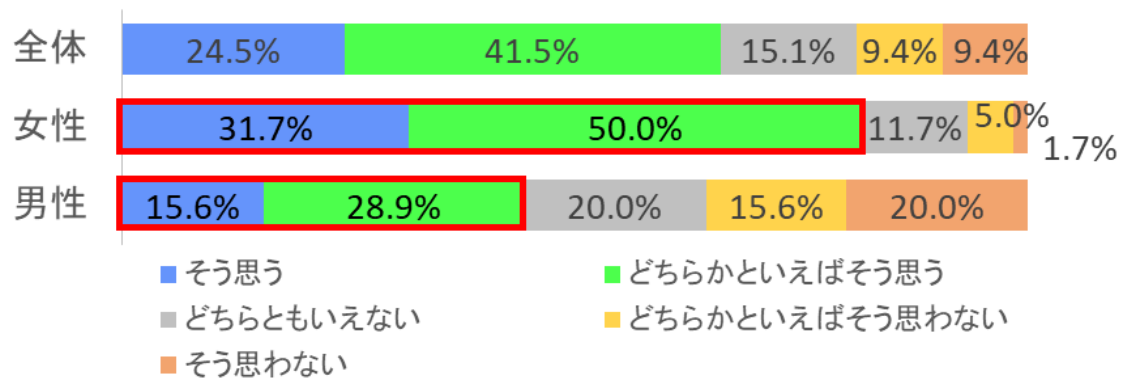
問2 女性活躍・D&Iを推進することは、企業にとって、組織の活性化や経営上の成果につながると思いませんか。

- ・男女ともに肯定的な回答が多く、全体では約8割（83.0%）を占める。否定的な回答（「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」）は1割に満たなかった。



問3 就職先を考えるにあたり、企業の女性活躍推進・D&I 推進の取組状況について、企業の HP や説明会等を活用して事前に知りたいと思いますか。

- ・女性活躍・D&I 推進の取組状況を事前に知りたいと思う割合は、女性約 8 割（81.7%）、男性約 4 割（44.5%）と、女性のほうが圧倒的に多い。

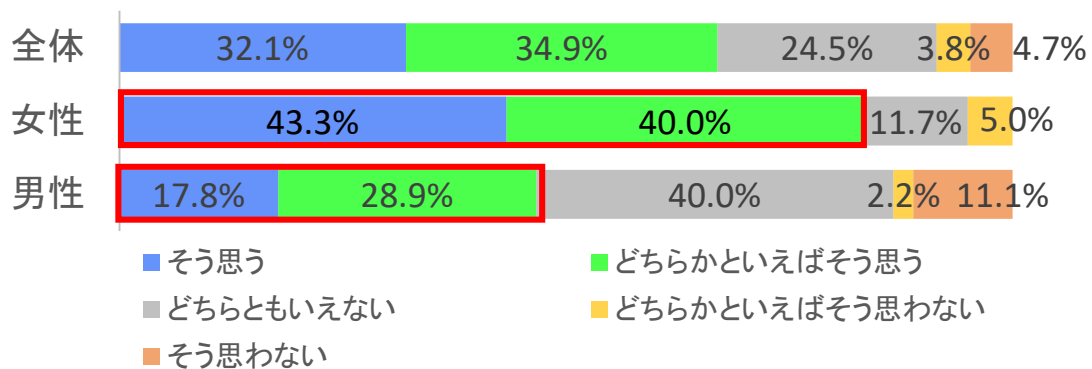


問4 女性管理職比率が高いなど、女性活躍推進に積極的に取り組んでいる企業で働きたいと思いますか。

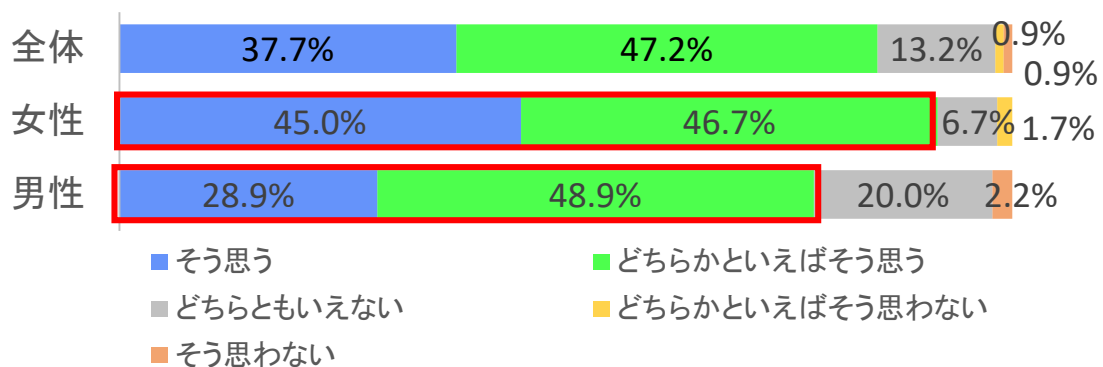
問5 多様な人材が活躍できる環境整備が進められているなど、D&I 推進に積極的に取り組んでいる企業で働きたいと思いますか。

- ・女性、女性活躍に積極的な企業で働きたいと考える割合が約8割（83.3%）と高く、D&I 推進に積極的な企業についても同様に、約9割（91.7%）と高い結果となった。
- ・問3でも、女性の約8割（81.7%）が女性活躍・D&I 推進の情報を事前に知りたいと回答しており、女性の企業選びに高い影響を及ぼすことが推測できる。
- ・一方、男性は、女性活躍に積極的な企業で働きたいと考える割合が約5割（46.7%）にとどまる一方、D&I 推進に積極的な企業については、約8割（77.8%）が働きたいと回答し、差が大きい結果となった。

問4



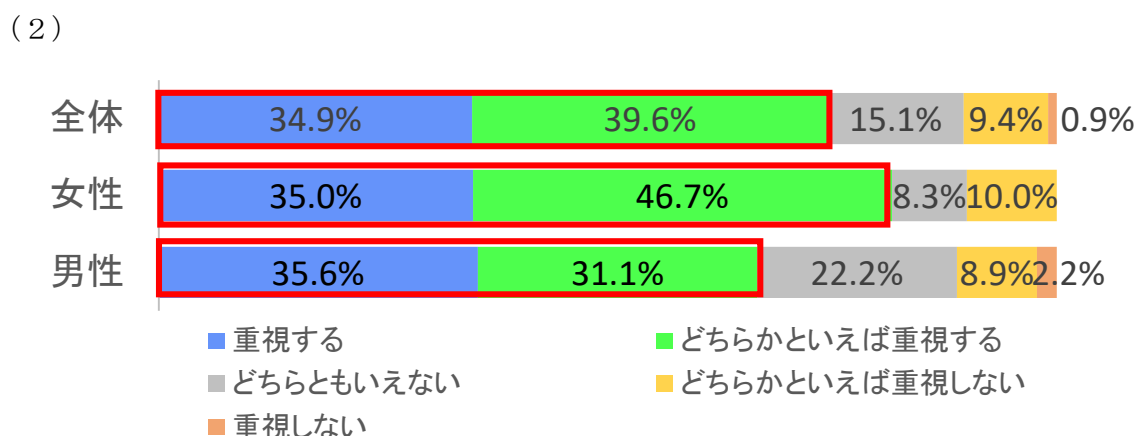
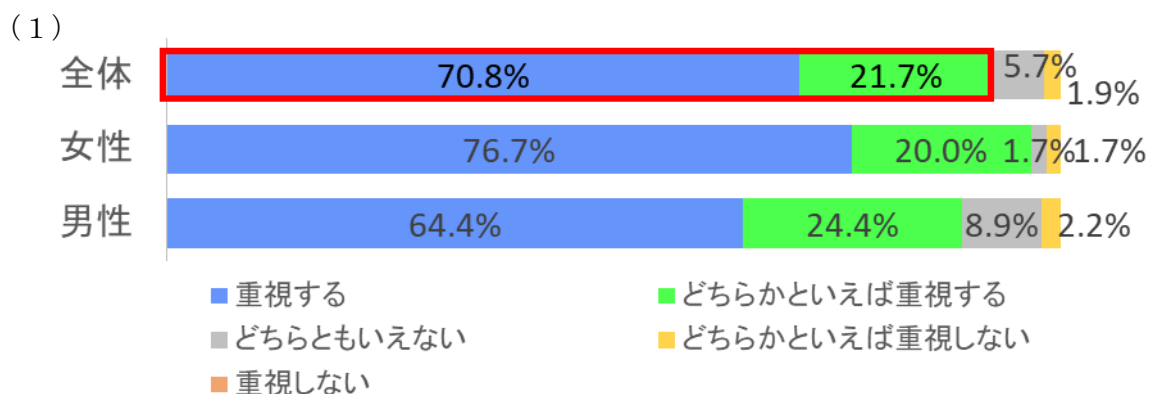
問5

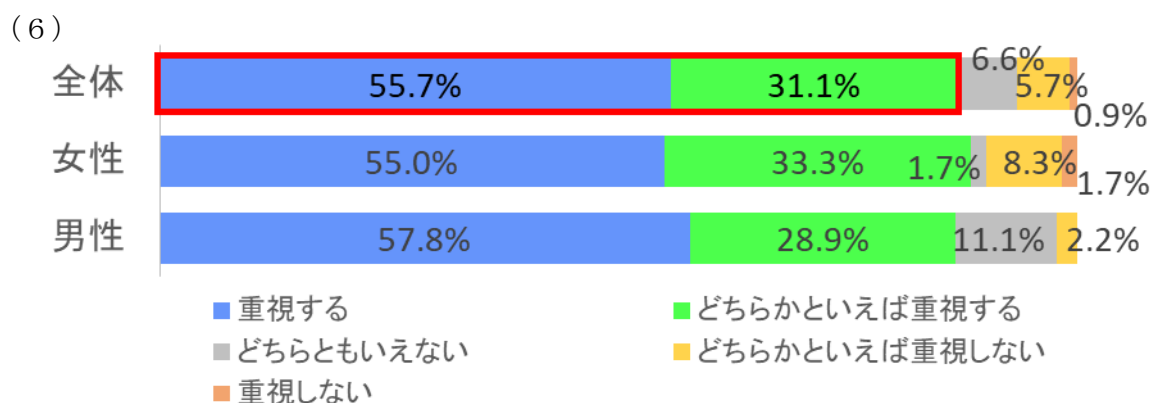
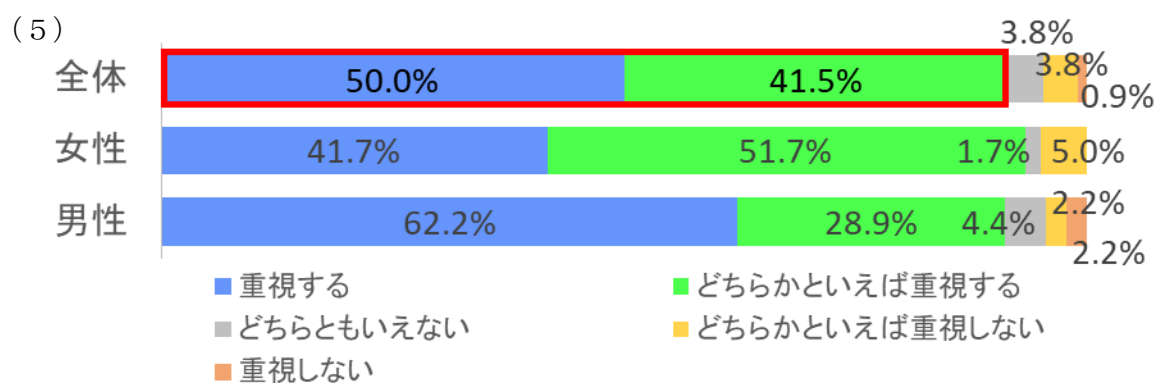
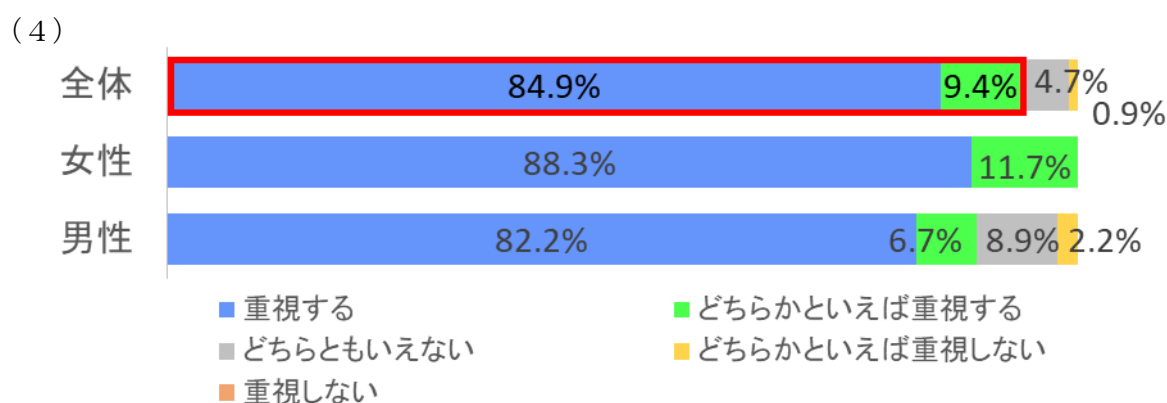
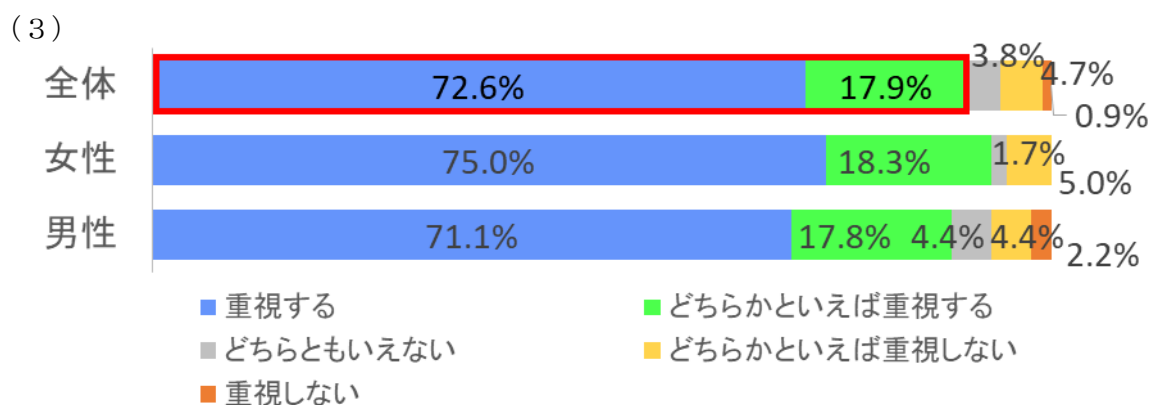


職業や就職先の選択で重視すること

問6 職業や就職先の選択にあたり、以下のそれぞれの項目について、どの程度重視しますか。

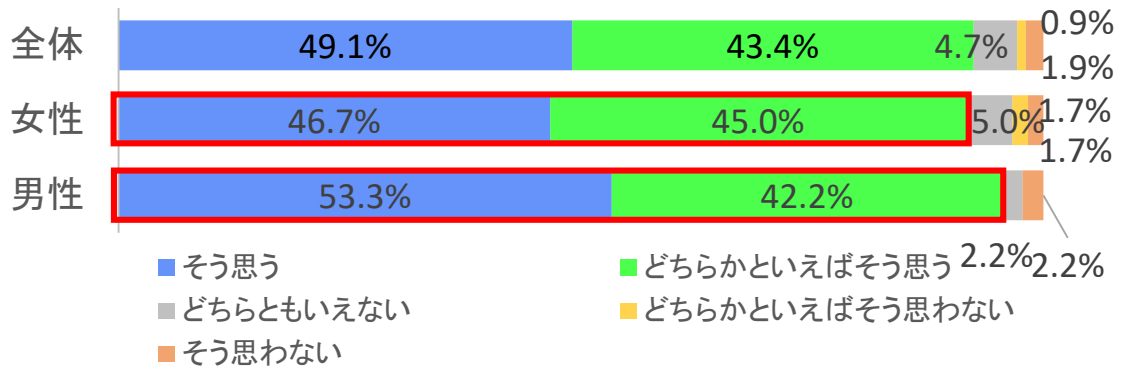
- (1) 残業時間が少なく、プライベートの時間が確保できること
 - (2) テレワークや短時間勤務など柔軟な働き方ができる環境であること
 - (3) 育児や介護等のための休暇が取りやすい環境であること
 - (4) 人間関係の風通しがよく、安心して働くことができる環境であること
 - (5) モチベーションの向上や自己の成長につながる教育・研修制度や挑戦できる環境であること
 - (6) やりがいが感じられる仕事ができる環境であること
- ・いずれの項目も重視する割合が高い（8～9割）が、「(2) 柔軟な働き方ができる環境」については重視する割合は約7割（74.5%）にとどまり、かつ男女間の差が大きかった（女性 81.7%、男性 66.7%）。





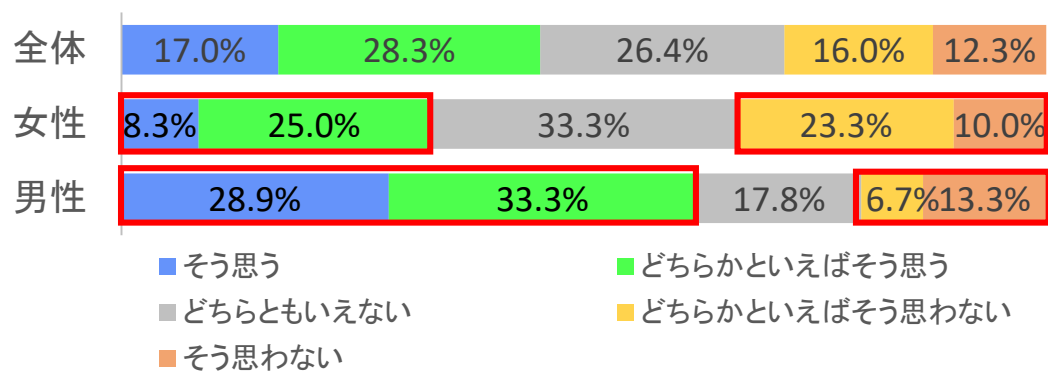
問7 問6、問6-2で回答したような、あなたが重視する環境があれば、企業の規模にかかわらず働きたいと思いますか。(志望度が上がるか)

- ・男女ともに、約9割が働きたい(志望度が上がる)と回答。



問8 将来、管理職を目指したいと思いますか。

- ・肯定的な回答が男性約6割(62.2%)は管理職を目指したいと回答する一方、女性は約3割(33.3%)にとどまり、大きな差がみられた。
- ・また男女ともに、否定的な回答(「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」)が、女性は約3割(33.3%)で、男性も2割(20.0%)を占めた。



その他〔アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）について〕

問 9 普段の生活の中で、ジェンダーギャップを感じた場面があれば教えてください。

【主な意見】

○女性

- ・家事・育児は女性がやるものというステレオタイプの考え方
- ・地域おこし協力隊のインターンを行った際に、私は事務作業で、男の子はキャンプ事業の手伝いをやっていてギャップを感じた

○男性

- ・男性は女性に食事を奢る、そして女性は奢られることに何も違和感を持っていない
- ・力仕事は男性、それ以外の業務は女性といった仕事の内容で区別がある

問 10 将来、自分の性別が仕事に影響を及ぼすと思いますか。

- ・男女ともに約半数（女性 60.0%、男性 46.7%）が影響を及ぼすと回答。

